



みやぎ視能訓練士の会

The Association of Miyagi Orthoptists

2月の会報をお送りします。

～内容～

- | | | |
|---|------------------------------|--------|
| ① | <報 告>青葉区養育支援訪問事業専門指導員等研修会報告 | P2-6 |
| ② | <報 告>2024年度 第1回全体会 | P7-8 |
| ③ | <お知らせ>2024年度 第2回全体会 | P9 |
| ④ | <募 集>3歳児健診屈折検査スタッフ募集! | P10 |
| ⑤ | <お知らせ>第14回東北文化学園大学視覚機能学専攻研究会 | P11-14 |

★☆☆会報、その他に関するお問い合わせ

koho@myg-ort.com

☆☆★会員記録や登録アドレスに関するお問い合わせ

j.ort@myg-ort.com

★☆☆会費に関するお問い合わせ

kaikei@myg-ort.com



運営委員を募集します

現地参加できなくても、Webでの参加も可能です。

やってみたいことや、疑問を解決したいけど聞ける人が近くにいない、気軽に話せる仲間が欲しいなどなど参加理由はなんでもOK!

一緒に会を盛り上げていきませんか?

お問い合わせ:koho@myg-ort.comまで

運営委員
募集中



青葉区養育支援訪問事業専門指導員等研修会のご報告

2025年1月9日(木) 青葉保健所で養育支援訪問事業専門指導員等研修会が開催されましたので、その御報告です。

対象：青葉区で養育支援訪問事業に携わる専門指導員、妊産婦・新生児訪問指導員、3歳児健康診査従事者、母子保健関係職員(ほぼ保健師さん)等という事でしたが他地区からの参加も多く、30名予定のところ55名程度の参加者となり、盛況でありました。

研修の目的は

「仙台市では、3歳児健康診査に屈折検査が導入され、視覚異常の早期発見早期治療を強化している。新生児訪問等においても小児科で視覚検査を受けている乳児が増えており、検査の内容や意義を学びたいという声がある。また、近年“スマホ育児”や“スクリーンタイム”が話題になっている中、過度な画面視聴が乳幼児期の眼の発達にどのような影響があるのか、保護者に具体的に指導をする機会がなかった現状がある。そこで、乳幼児期の眼の健康の保持増進に向け、基本的な知識を学び、保健指導に活かしていくことを目的に、研修を企画した。」という事でした。

そこで、**安達いづみ先生**（東北文化学園大学 医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚機能学専攻）に「**乳幼児期の視機能発達と眼の異常**」というタイトルで約90分の講演をしていただきました。

内容は

- ① 視能訓練士のPR
- ② 乳幼児期の眼の発達
- ③ 気をつけたい眼の異常



という事で、屈折異常や斜視・弱視の説明からデジタルデバイスと眼や心身発達との関係のトピックスまでまとめてお話いただき、さらにTACやドットカード、Stereo testなどを実際にお見せしての理解しやすいお話となりました。3歳児健診屈折検査のご報告ももちろん入っていました。

保健師さんたちの熱心さで大変良い研修会となりました。

アンケートでも良い反応、気になる反応がありましたので、添付いたします。

会場で出た気になるお話

- ・健診で検査ができない、という事でリストにある眼科に行ったが結局検査ができなかった上、「普通ならできるんだけどねえ」と言われた。
- ・発達に問題がある子どもを連れて行って、あからさまに嫌な顔をされた。
- ・連れて行って何かいい事があるのか。

というような話を保護者から聞くことがあり、そのために精検の受診率が60%にとどまっているのではないかと、との事でした。

発言した保健師は、今日いろいろお聞きして、とてもよく分かったことがあるので、今回研修で聞いたような話をもっと保護者に発信して、精査の重要性を理解して頂く事が必要ではないかと、お話されていました。

皆さんはどう思われますか？ご意見お待ちしております

nihonya@tech.tbgu.ac.jp

残念ながら、写真を撮り忘れてしまったので、安達先生のスライドの一部を掲載します。

文責：二本柳

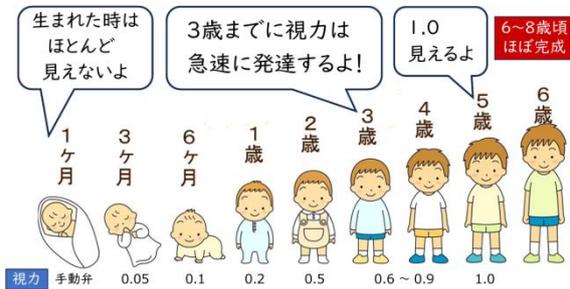
研修会

乳幼児期の 視機能発達と眼の異常



東北文化学園大学 医療福祉学部
リハビリテーション学科 視覚機能学専攻
安達いづみ (認定視能訓練士)

視力の正常発達



小学校入学頃までに視力は発達して1.0見える

日本眼科協会「Stop 弱視見直し!」より改変

「見る」を探らし眼を守る 視能訓練士の仕事

4つの業務分野



斜視になると、どんな見え方?



視機能が完成した後に斜視になった場合に多い
視機能の発達段階にある幼小児に多い

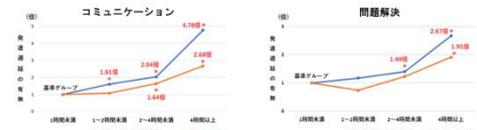
こどもとデジタルデバイス

- 2019年 文部科学省「GIGAスクール構想」
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響
- デジタルネイティブ世代

こどもの視機能への影響

- 近視
視力低下
- 内斜視 (AACE: 急性後天性共同性内斜視)
→スマホ内斜視と呼ばれることもあり
突然の複視・内斜視
- コンピューター視覚症候群 (CVS)
疲労感・乾燥感 (ドライアイ)

スクリーンタイムと発達の遅れとの関連



・基準グループ (スクリーンタイム1時間未満) を1.00としたときに、スクリーンタイムの各カテゴリーで発達の遅れがある割合が何倍に増加したかを示しています。
・「*」マークは基準グループと比較して有意差 (注4) が確認されたことを示しています。

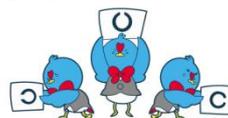
東北大学プレスリリースより再編

1歳時のスクリーンタイムは、2歳・4歳時点のコミュニケーション領域・問題解決領域の発達の遅れと特異的に関連し、成長とともに継続する
しかし、スクリーンタイムの極端な制限を推奨するものではない

研修会

「乳幼児期の 視機能発達と眼の異常」

ご参加いただき
ありがとうございました



令和6年度 青葉区養育支援訪問事業専門指導員等研修会 アンケート結果

参加者：46名 アンケート回収枚数：33枚（回収率：71.7%）

Q1. 該当職種に○をつけてください。

保健師 21名（63.6%）
助産師 10名（30.3%）
看護師 2名（6.1%）

Q2. 今回の研修内容は理解できましたか。

非常に理解できた 21名（63.6%）
まあ理解できた 11名（33.3%）
あまり理解できなかった 0名（0.0%）
理解できなかった 0名（0.0%）
無回答 1名（3.1%）



Q3. 今回の研修の感想

- 今まで気になりつつも、なかなか学ぶ機会の少ない分野で、興味深い内容でした。視覚のこと、眼の異常の内容と、また、デジタルの影響、予防のための具体的な内容もわかりやすかったです。
- 大変勉強になりありがとうございました。これからの指導の参考にさせていただきます。予防医学の大切さを再認識いたしました。ありがとうございました。
- 知らない、分かっていなかったことが多く、大変勉強になりました。自分が子育て（10年前）に疑問に思っていたことが、今明確になり、お母さんたちに伝えるといいと思いました。
- 乳幼児の視覚検査についても具体的に知れておもしろかったです。自分の子どもが、3.7健診で要精査となり、その後からメガネ使用中です。眼科で、人の眼機能の成長は8-10才で止まると聞いて（私も知らなかったので）、親としてとても不安だった記憶があります。それから、訪問時、上のお子さんが3.7に近いと、視力検査をすることはすごく大切なことだと話していました。今回、より詳しく知れてよかったです。3.7の後から、こども園でもメガネ率がぐっと上がりました！！なので、受診率が60%台と聞いてびっくりしました。地道に伝えていきます。
- なかなか勉強する機会のない専門的な子供の視力について詳しく聞かせていただき、とても参考になりました。乳幼児の“視力が育つ限られた時期”を大切にしなければならないと深く再認識しました。合わせて、スマホやタブレットの使用の危機感についても、使い方について必要なアドバイスができるよう自分なりに伝え方を考えてみたいと思いました。外遊びのすすめもこれまで以上意義を認識して、伝えてみたいと思います。とても良いテーマでした。ありがとうございました。視能訓練士さんが使命感をもって一生懸命活躍して下さっていることに心打たれました。
- 普段の健診時、目に関しては担当に任せていたので、きちんと学び直せてとてもよかったです。
- 実際に使用している検査道具を見せて頂き、勉強になった。屈折検査を実施する意味を知れてよかった。

- スクリーンタイムを減らすことだけでなく、外遊びを増やす等新たな手段を考えていくことが大切だと学び、今後の支援に生かしていきたいと思いました。また、今回学んだ知識を、3.7後の精検を保護者に勧奨する際に生かしたいと思います。
- 乳幼児期における視機能発達について、今一度学ぶことができた。大変有意義でした。実際に使用する評価ツールに触れることができ、良かった。
- 保護者から、乳幼児のデバイス利用について不安の声を聞くことが多くなっていますが、どのようにデバイスと向きあい、対策ができるのか、今回の研修を受けて伝えることができると思います。ありがとうございました。
- 乳幼児の発達の時期など視覚についてすごく学びました。根拠が知れて本当に良かったです。今後の指導に役立てたいと思います。
- こどもの目の発達について、大事な時期を学ぶことができた。近視等が低年齢化しているとのことで、乳児期からの意識を保護者に持ってもらうようにしていけるとよと感じた。
- 改めて視機能について学びを深めるとともに、視覚機能の発達時期に適切な視覚刺激がうけられるよう、こちらとしても保護者への声がけにつながれるのではと、とても良い学びとなりました。ありがとうございました。
- 視機能の発達する時期には限りがあり、特に立体視の発達の期間の短さに驚きを隠せませんでした。このお話をママさん達にどのように伝えればうまく伝わるのか考えてみるきっかけになりました。スマホ育児は訪問する度に高頻度に質問されることが多いので、それに対する答え方の参考になりました。外遊びは視力やコミュニケーション等にも重要なのですね、
- 初めて知る内容が多くとても参考になりました。
- スクリーンタイムの長さがコミュニケーションや問題解決領域に影響があるということを知ることができて良かった。
- 実際に検査キットをみれてよかった。子供の発達のためにはやはり外遊びが大切なこと、視力の発達にもよいことを学びました。
- 子どもの目の健康について考える機会が増えており、病気であることのリスクを自分も意識できていないに気付いたため、3.7のときだけではなく、乳児期からの啓発をしっかり行っていきたいと思いました。
- 早期に、くっきり見える状況にすることが大切であることがわかった。3歳児健診後の精検の勧奨をする際、今日の学びを活かして保護者へ伝えていきたい。
- 適切な時期の適切な関わりをすることが、将来にも影響することを改めて知れました。眼に関する知識を深めることができました。眼にスポットをあてた研修は貴重な機会でした。ありがとうございました。
- 普段は、なかなか聞くことのできない眼のお話を聞くことができ興味深い内容でとても勉強になりました。
- 基本的な知識から、実際の検査器具をみせていただいたり、最近の研究動向まで詳しく知ることができてよかった。新生児訪問などに携わる身として、眼の成長の大切さを伝えていくことからしっかり始めたいと思いました。
- 視機能の発達と眼の異常について具体的に理解できた。
- 眼の疾患については、まだ難しいことも多かったですが、わかったことも多くあり、とても、勉強になりました。乳幼児期の眼の発達、早期発見がいかに重要なのがわかってよかったです。
- 視機能について改めて学ぶ機会は今まで少なく、理解できていない部分が多かったため、研修がとても有意義でした。まだ自分の中に落とし込めていないところもあるため、資料確認しながら日頃の支援につなげていければと思います。
- 勉強になりました。視覚検査の重要性や児の早期の介入の大切さを知りました。
- 新しい知識を得ることができて有意義でした。



- 生まれてすぐは、軽い遠視、視覚の発達には、感受性期間がある、初めて知る内容もあり、勉強になりました。
- 視力の発達の時期があることがわかった。メディアの視聴と視力の関係について深く学ぶことができた。外遊びも大事だと感じた。
- 貴重な研修ありがとうございました。外遊びをすすめていきたいし、保護者へ伝えていきたい内容でした。
- 視力検査、視力の発達について詳しく知ることができてよかった。「目をあわせてあそぶ」ということについて伝えてもなかなか実施してくれない親子も増えています。「あそび方を教えてほしい」と乳児期から質問も出るので、外あそびへのハードルが上がっているとも思いました。
- どうして乳幼児期に視覚検査や早期の治療につなげることが大切なのかを理解することができました。
- 近視、乱視、遠視、不同視等について理解を深めることができた。近視の予防について、外遊びが影響しているエビデンスを知ることができよかった。母に外遊びの勧めや、発症早いと悪化することなどを伝える時の根拠として示すことができれば、動機づけにつながると思う。

Q4. 今回の研修から、さらに学びたい内容がありましたらご記入ください。

- 新生児訪問において、「寄り目でしょうか？」等の質問を受けることがあります。早期発見、早期治療を考えると、どのような助言をするとよろしいでしょうか。
- 実際の視覚訓練の内容を知りたいと思いました。
- 近視予防について。
- 今後のメディアと近視や発達への影響に関する研究をおっていきたいと思います。
- 今回の学びを健診等の援助で行っていききたい。
- スマホ、タブレット、DVD、TVなどの視聴による子供への影響（視機能、コミュニケーション力など）
- 視能訓練士から見ておすすめの親子遊び。
- 乳幼児とメディアの関連性や影響。

Q5. 今後、研修会で聞きたい内容がありましたら、ご記入ください。

- 色々な質問がありましたが、支援者としてという観点ですが、正直、ママたちが、なぜ、3.7をするのか、視力がなんで今なのか、聴力今なんで？という感じだと思うんです。私も正直知らなかったし、、、3.7通知の時点で、何か資料入れるとか、一般の方でもわかりやすい媒体入れてみるとか「やります」だけじゃなくて周知することに市として力入れてみるのはどうでしょうか？
- 運動機能の発達とその評価について（定型発達に対し、脳疾患等により起こる運動機能障害がどのように影響を与えるか、どのように評価すべきか等）。
- 最新のアレルギー治療、乳幼児の発生状況など知りたい。
- 愛着形成について。
- 子供の発達発育、肥満、歯科。
- 次回は保護者向けの講話は開催されるのでしょうか？



2024年度第1回全体会報告

日時:2025年1月16日(木) 19:00~20:45

形式:現地開催

会場:仙台市生涯学習支援センター 会議室

参加者:5名

内容:「眼鏡レンズの基本を学ぶ」

- ①「累進レンズについて」(株)ニコン・エシロール 菊川雅史氏
- ②「累進屈折力レンズについて」メガネのヨネザワ セルバ店 花崎智氏
- ③ VRで累進レンズシミュレーション体験
- ④ 質疑応答・意見交換



「レンズの基本を学ぶ」をテーマとし、今回は累進レンズについてお二人よりお話し頂きました。参加者のみなさまからの感想です。

第2回全体会は2月20日(木)19:00~です(視能訓練士国家試験日ですね)

今までの勉強会で聞いていても実際やってみると、ほんとに合っているのか?と不安しかなかったアイポイントの話や累進帯の長さの話などグイグイ聞けてとても濃厚な勉強会でした。まだまだ「分かっているつもり」のメガネの世界は奥深いです。

「ちょっと分からないのもう一度説明してもらってもいいですか」講演の途中でこんな質問をしても講師の方々は丁寧に、そして途中からはホワイトボードに図解説明、気がついたらもう終了時間という濃厚な時間を過ごしました。累進レンズは勉強会で何回も学んでいるはずなのに、今回やっと腑に落ちた、という内容もありました。レンズメーカー・眼鏡作製技能士・視能訓練士・職種は違えど快適な視生活を支えるために重要な役割を担っているなと感じました。

レンズの特徴(遠近・中近・近近累進帯・アイポイント・測定点)を再確認できて良かったです。レンズも日々進化しており、繰り返し学ぶことの大切さを実感しました。患者さんの要望をいち早く察知し、眼鏡作って本当に良かったなあと思っていたいただけるような眼鏡合わせをしたいです。



今回、勉強会に参加した理由は、「自分では積極的に勉強しようと思わない分野について簡単に教えてもらおう」と思ったからです。

結果、本当にとっても勉強になりました。

普段の勉強会であれば、講演の後に質疑応答がありますが、今回は講演の途中でも気軽に質問をすることができたため、疑問を解決しながら楽しく学ぶことができました。

特に大きな学びは、遠近両用眼鏡装用時のシミュレーション体験ができたことです。遠近両用眼鏡を装用したことのない視能訓練士は、実際の装用感や目線の動かし方など、患者さんにどのようにアドバイスするのがベストなのか試行錯誤している方が多いかもしれません。

今回の勉強会ではその点についても質問することができたため、とても参考になりました。

ご講演いただいた講師の先生方、本当にありがとうございました。

メガネ業界の最新事情や累進レンズの基本を再度学ぶことができた。実際に眼鏡販売店の方と交流することができ、眼科領域とは違う視点の話が聞けた。また、活発な意見交換もでき、大変有意義な時間になった。



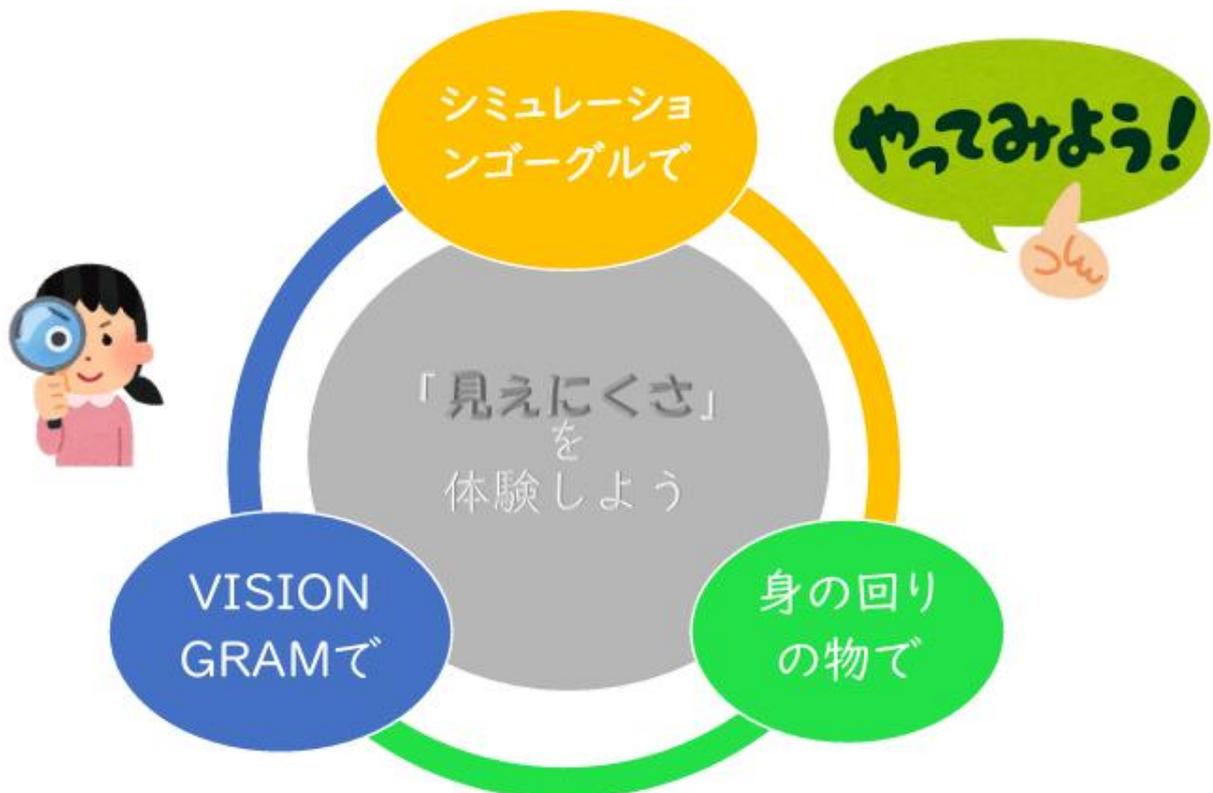
ニコン メガネ チャンネル



文責：太田

第2回全体会お知らせ

日 時：2025年2月20日(木) 19:00~20:30
テ マ：「見えにくさ」を体験しよう
会 場：仙台市生涯学習支援センター 5階会議室
仙台市宮城野区榴岡4-1-8 (榴岡図書館の上)



今回は様々な方法で「見えにくさ」を体験します。患者さんの見え方は、病名や検査結果で理解はしているものの、私たちが実体験できるものではありません。

擬似体験ではありますが、患者さんの見え方にちょっとでも寄り添える体験ができることを期待して開催します。

※VISIONGRAMではGP結果を使います。ご持参下さい。

歓談の時間では、日頃の検査で困っていること、患者さんへの対応の仕方、こどもの検査のコツ、どんなことでもかまいませんので、みんなで意見交換したいと思います。

事前申し込み不要です。みなさまの参加をお待ちしています!

問い合わせ先 s.ota@miyagi-children.or.jp(学術：太田)

仙台市 3 歳児健診・屈折検査

STOP!
弱視見逃し

すべての視能訓練士

大募集!



あなたも仲間にも！現在 **27** 名が活躍中。

視能訓練士として社会貢献を!

勤務地

青葉区保健福祉センター・宮城野区保健福祉センター・若林区保健福祉センター・
太白区保健福祉センター・泉区保健福祉センター・宮城保健センター

業務内容

3 歳児健診：SVS(スポットビジョンスクリーナー)による屈折検査

活動日

火曜日 宮城野区

水曜日 青葉区・太白区・泉区

活動時間

木曜日 若林区・宮城保健センター（下愛子）

12:30~17:00 の間の 4 時間

謝金

時給 1,311 円+α

その他

委嘱状の対応します（仙台市より）



Point!

SVS 未経験でも大丈夫

勉強会・引き継ぎします

見学のみ随時可（応相談）

Point!

仙台市外の方も大歓迎!

みやぎ視能訓練士の会以外の方も大歓迎!



登録はこちら



問い合わせはこちら

svs@myg-ort.com

担当：二本柳

svs@myg-ort.com



～視能訓練士の将来性を考える～

開催日時 2025年
3月2日 日 10:00～12:25

開催方法 ZOOM開催

特別講演① 「海外留学を活かした
オンリーワンのキャリアデザイン」
講師：戸張 歩海 先生（ジャパンフォーカス株式会社）

特別講演② 「視能訓練士とビジョンケア」
講師：松井 孝子 先生
(国立障害者リハビリテーションセンター病院)

講演内容 特別講演① は、北里大学で視能訓練士免許を取得後、シドニー工科大学院の修士課程へ進学し、日本とオーストラリアの2か国で視能訓練士の在り方を模索した経験から、「視能訓練士のキャリア形成」について、ジャパンフォーカス株式会社 戸張歩海先生にご講演いただきます。

特別講演② は、大学病院での卒後研修後、急性期医療、こども病院、視覚リハビリテーションを専門とする病院に勤務された幅広い経験から、「視能訓練士として関わるビジョンケア」について、国立障害者リハビリテーションセンター病院 松井孝子先生にご講演いただきます。

申込締切 2025年2月28日(金)

※ 詳細は後日、大学ホームページ「視覚機能学専攻 News」に掲載します

問い合わせ窓口

東北文化学園大学 医療福祉学部
リハビリテーション学科 視覚機能学専攻
E-mail：石川奈津美 ishikawa@rehab.tbgu.ac.jp
小野峰子 miono@rehab.tbgu.ac.jp

参加登録は
コチラ →



是非ご参加ください！



東北文化学園大学
第14回 視覚機能学専攻研究会



テーマ：視能訓練士の将来性を考える

日時：2025年3月2日（日）10:00～12:25

プログラム

司会 丹治 弘子（視覚機能学専攻）



10:00 会長あいさつ 小野 峰子（視覚機能学専攻・専攻長）

10:05 特別講演① 座長：原口 翔太（視覚機能学専攻）

「海外留学を活かしたオンリーワンのキャリアデザイン」

戸張 歩海 先生

ジャパンフォーカス株式会社

* 質疑応答

11:15 特別講演② 座長：安達 いづみ（視覚機能学専攻）

「視能訓練士とビジョンケア」

松井 孝子 先生

国立障害者リハビリテーションセンター病院

* 質疑応答

12:25 閉会



特別講演①

「海外留学を活かしたオンリーワンのキャリアデザイン」

とばり ほうみ
戸張 歩海 先生（ ジャパンフォーカス株式会社 ）

【ご略歴】



- 2017年 北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科視覚機能療法学専攻卒業
- 2019年 University of Technology Sydney, Master of Orthoptics, Graduate Diploma in Vision Science 修了
- 2020年 ジャパンフォーカス株式会社
現在に至る

2020年あたりからメディアやSNSで登場し始めた「風の時代」という言葉。2024年11月から本格的な「風の時代」に突入しているようだ。「風の時代」とは、これまでの固定観念に捉われない生き方や型にはまらない価値観を意味する。つまり、“自由”で“多様性”に富んだ、フレキシブルな世の中がやってくるということである。それに加え、今後は、知性・コミュニケーションなど、形のないものが意味を持つようになり、想像力、思考力が重要視され、柔軟性が必要になると言われている。いわば常に変化を求め、積極的に行動するそんな能動的に生きる時代と言えるだろう。

そんな主体性が求められる時代を生き抜くためには、自分の好きなことや、やりたいことに素直に従うことが重要である。なぜならば興味その先に行動があるからである。やりたい、こうなりたいという自分の気持ちを大切にしつつ、人と違うことをする勇気と思切りのよさを持ち合わせていくこと。視能訓練士で例えるならば、資格を取って病院やクリニックで週5日働くといったオーソドックスな働き方だけが正解ではない時代になった。最近では、副業やフリーランスといった働き方が増えたように、視能訓練士でも複数の施設を掛け持ちし、どこにも属さないフリーランスの視能訓練士も見かけるようになった。臨床以外でも、企業に就職や転職したり、全く違う分野に挑戦したりと視能訓練士の活躍の場が広がってきたように思う。多方面で活躍する視能訓練士が増えることで、視能訓練士の可能性が益々広がることだろう。

視能訓練士で在りながら「風の時代」をいかに楽しんで生きていくか、風のように自由に国境さえも越える発想でひとりひとりに合ったオンリーワンのキャリアデザインを考える時間になりますように！

<memo>



※大学院時代に受けた留学に関するインタビュー記事

特別講演②

「視能訓練士とビジョンケア」

まつい たかこ
松井 孝子 先生（国立障害者リハビリテーションセンター病院）

【ご略歴】



1992年3月 国立小児病院附属視能訓練学院 卒業
1992年4月 北里大学病院 入職
1999年4月 北里研究所病院 入職
2010年9月 秋田大学大学院医学系研究科地域医療連携学講座入職
2011年3月 秋田大学大学院医学系研究科医科学専攻 修了
2015年9月 秋田大学医学部附属病院 入職
2019年4月 国立成育医療研究センター 入職
2022年4月 国立障害者リハビリテーションセンター病院 入職

視能訓練士（CO）の職域は視能検査、視能訓練、健診業務、ロービジョンケア（LVC）である。

養成校では視能学を中心に学び、実習する。COはリハビリテーション職と学生の頃に学ぶが、就職するとそのことは忘れられがちである。それはなぜだろうか？ COは、勤務時間の中で検査の割合が多すぎるため、CO自身も検査をすることが仕事と思うようになるのではないだろうか。

2030年に視覚障害の有病率は200万人に増加すると予測¹⁾がある。高齢者の視覚障害者が増えて、待ったなしでLVCが必要な時代を迎えるが、いまの現状では見えにくい患者さんが増えてしまうだけである。

小児は視機能の発達が未熟で早期に弱視を発見し、弱視治療を行うことをCOは理解している。言い換えれば、これは一生におけるビジョンケアの始まりである。

検査するカルテが溜まっているとそんなことを考えている暇はないが、見えにくさを評価している私たち以外にビジョンケアを担当する人材がないことも事実である。

生涯「見える」生活を維持するために、見える機能を育て、加齢による見え方にも提案ができ、病気により視機能が著しく低下した時に残存機能を使い、その人の「見える」をサポートできるのはCOではないだろうか。

ビジョンケアについてCOの皆さんと一緒に考えていきたい。

1) <https://www.nichigan.or.jp/intern/summary/qa/>

<memo>